

(會議錄)

場 所：山梨県立甲府第一高等学校会議室

《次第》

司会 学校運営協議会担当指導主事

- 1 はじめの言葉（司会）
- 2 県教育委員会挨拶
- 3 県教育委員会職員紹介
- 4 学校運営協議会設置通知書交付
- 5 令和6年度甲府第一高等学校学校運営協議会委員委嘱状交付
- 6 終わりの言葉（司会）

《次第》

司會 教頭

- 1 はじめの言葉（司会）
 - 2 学校長挨拶
 - 3 学校運営協議会委員紹介
 - 4 山梨県立甲府第一高等学校 学校運営協議会の運営等に関する要綱（別冊）
 - 5 山梨県立甲府第一高等学校 学校運営協議会会長・副会長選出
-
- 6 会長・副会長挨拶
 - 7 議事 【議長 会長 】
- （１）令和６年度山梨県立甲府第一高等学校学校運営基本方針について（校長）
 - （２）令和６年度山梨県立甲府第一高等学校学校評価計画書について（別紙）（教頭）

ご意見等

- ・ 新たな担当者が必要な事業であれば、先生方の負担が大きいのではないかと。誰がこの事業を進めるのか。事業を進めるには情報共有が必要であるが、連絡調整の負担を減らす工夫をしてください。はたらき方改革とのバランスも考えながら進めてほしい。
先生方がつぶれては困る。持続可能なシステム作りに取り組んでほしい。
- ・ 生徒のやる気はどうか。やらされている感はないか？意欲的に取り組んでいるか？
生徒の主体性を重視して進めてほしい。
国際交流をするとなると英語が必要になるが、生徒の英語力は充分か？
⇒意欲的で興味のある生徒が参加している。必要な支援はしている。
- ・ 山梨大学の立地は一高との連携にはとてもアドバンテージがある。ぜひ活用してほしい。
留学生も280人いる。学生が一高に来てよいし、一高の生徒が梨大に行ってもよい。やりやすい方法を模索して、交流できるシステム作りが双方の利点に繋がる。
- ・ 自主企画は現場へ行くべき。頭の中だけでいろいろ考えていてもそれは空理空論で役に立たない。高校時代はモヤモヤがあってもよい。多くの経験を通してそのモヤモヤをため込んで欲しい。
モヤモヤは弓を引いている状態。高校は弓を引いている時期であって良い。答えを求めなくて良い。25くらいまでは世界をめぐる時期ではないか。経験を通して多様な基礎的なモノとコトを身に着けさせることが大事。(必要なモノを身に着けるのではなく、身に着けたものの中から使えるモノを選び深めて行く) 自身も周りも成果を求めすぎないでいろいろやる(やらせる)ことがパワーを秘めることに繋がる。日新基金を有効活用して欲しい。
先進国と途上国とを見ることは大事。それぞれの国が今の状態である根拠がある。そのことについて考えることはとても役に立つ。
- ・ 「地域とのかかわり」の地域とはどのあたりのことを指しているのか。
学校は閉鎖的で中身がよくわからない。オープンにして地域に開かれるべき。
学校運営協議会が人事に意見を言えるということも開かれることの一つ。
- ・ 地域の子どもを見ていると、バスの中などでよく本を読んでいる。良い姿勢を身に着けている子どもがいる。
- ・ 子どもが2人一高にお世話になった。
WWL は羨ましい。私の頃にはなかった。世界と繋がることができるこのような機会(指定)は素晴らしいこと。是非世界に通用するような人材育成をしてほしい。いずれ山梨にも還元できれば素晴らしい。そこまで見越した人材育成を進めて欲しい。
- ・ 学校評価計画の「学校目標・経営方針」と3頁「一高が目指す姿」が異なっている。これは会社でいえば社訓のようなもの。これを誤るとは民間だったら潰されている。
「懐が～or 懐の～」は意味が異なる。どういう経緯で設けられた教育目標かも含めてよく考えて教職員で共有すべき。
WWL はきっと「はたらき方改革」に逆行する。そうならないよう、工夫することが大事。そのためには(立地からしても)山梨大学の活用は有効。研究者の活用を進める。そのための窓口を拡げてもらう。ネットワーク(連携)の窓口を進める。
- ・ 中学校は一足先にコミュニティ・スクールになっている。(人事権はとりあえずおいておく) 小学校中学校のコミュニティは学区。学校の課題を地域と共有して解決して行くことを目指している。
一高は全県から生徒が集まっているが、山梨県全体を地域と捉えるには無理がある。

一高は何かと注目される。悪口も陰でいわれていて、そういうことも耳には入ってくる。やっかまれることも含めて一高である。(悪い意味ではない)

WWL は外に出してもピンとこない。より具体化が必要で、外から見ても何をしているか理解され、意見をもらえるようにアピールしてゆくことが大切。

- ・ 大学生との交流は有効。

身延山の宿坊には外国人を住まわせている。外国人はグループで泊っている。彼らは外国から身延山に来て仕事をしている。身体と頭を一緒に使うことが大切。日本の精神の良さを求め、それを身体に浸み込ませている。海外研修だけがいいわけではない。

- ・ 山梨の良さをさらに探究して欲しい。

山梨の理系の進路は限られている。建築の進路はない。

山梨大学には文系の進路は少ない。生命環境学部の一部は文系。

高校卒業後の進路は選択肢が少ない。一方、高校の卒業生の数も今後急激に減少して行く。今後、山梨大学、山梨県立大学、英和大学、山梨学院大学で文理融合型の大学教育を進める。山梨の高校生の受け皿を作る準備を進める。小学校、中学校、高等学校でそれぞれの発達段階において山梨の課題を認識することを進めて欲しい。

- ・ 高 P 連の会員数は10年後1万人を下回る。学校計画は大転換期にあり、抜本的な改革が必要。一高が山梨教育のモデルになるよう目指すべき。

(4) その他 (コミュニティ・スクールの概要)

(5) 質疑応答

8 連絡事項

(1) 令和6年度年間行事予定について (教頭)

(2) いじめ防止基本方針について (教頭)

(3) 今後の予定

9月 5日 (木) 第2回 学校運営協議会

2月19日 (水) 第3回 学校運営協議会

9 情報交換、懇談 (各委員の方から)

10 閉会の言葉 (司会)